

和歌山県和歌山市

雑賀崎の地域資源の情報発信と空き家の利活用



【活動の基本情報】

参加学生数:10名

(1年生:2名、2年生:4名、3年生:4名)

活動期間:2022年4月～

顧問:永瀬節治

1. 活動実施の経緯

私たちは、2019年度に観光まちづくりコンテスト参加のため発足した雑賀崎での活動を、より実践的に行うため2022年度からLPPとして活動している。昨年度は地域住民の方々や地域団体と協力して、イベントの実施や空き家対策に向けての活動を行ってきた。

2. 活動の内容

今年度の雑賀崎LPPでは、雑賀崎に住んでいる方・雑賀崎を訪れる方(観光客)に雑賀崎をより知ってもらい、好きになってもらうため、子供向けのイベント、ロゲイニング、SNSでの発信などの取り組みを行った。

2024年2月に雑賀崎で活動するNPO法人さいかざきポッセが主催する「enjoy!旧正月in雑賀崎」のイベントのなかで、子供たち向けに凧作りワークショップを企画、運営し、同年8月に同団体主催で開催された「盆踊り」では、祭りの雰囲気盛り上げるため、お面やでんでんたいご作りのワークショップを子供たち向けに実施した。

また、自分たちを含めた若い世代に、より雑賀崎を身近に感じてもらうため、コンパスと地図を持ち、制限時間内に指定されたチェックポイントを回り、いかに多くの得点を獲得するかを競う競技「ロゲイニング」を実施し、雑賀崎LPP以外の本学部学生の参加を募った他、和歌山市の住民や出身者などを繋げるコミュニケーションサービス「FAVTOWN」と連携し、雑賀崎LPPの活動や雑賀崎の魅力・課題の発信を行った。

3. 活動を通じて

今年度の活動を通じて、自分たちがこれまで気づけなかった雑賀崎の魅力や課題を新たに発見しただけでなく、今後自分たちがどのように雑賀崎に貢献していく必要があるのかを議論する機会にもなった。今年度にあまり取り組めなかった空き家の利活用、コミュニティの活性化等の活動も含め、次年度は雑賀崎の現状を踏まえつつ、新たに自分たちにしかできないことを見つけ活動していきたい。

4. 成果ポスター

和歌山市雑賀崎LPP





雑賀崎の地域資源の情報発信と空き家の利活用

雑賀崎は和歌山市の南西部に位置する漁業が盛んな地域である。
雑賀崎LPPは2022年度より発足し、NPO法人である「さいかざきポッセ」や雑賀崎に住む方々のご協力のもと、これまで活動を行ってきた。2024年度は3回生4人、2回生4人、1回生2人で活動を行った。

【活動内容】

イベントのお手伝い



2月「enjoy!旧正月in雑賀崎」にて凧作り
8月「盆踊り」にてお面・でんでんたいこ作り



「FAVTOWN」と連携した
LPPの活動や雑賀崎の魅力・課題の発信

ロゲイニング

雑賀崎の迷路のような街並みをより多くの人に楽しんでもらうため、コンパスと地図だけでチェックポイントを回り得点を競う競技「ロゲイニング」を2回実施



宣伝方法や地域との関わり方などの課題はあったが、参加者だけでなくLPPのメンバーも楽しみながら雑賀崎の魅力を再発見できた。

【今後の展望】

今年度はロゲイニングなど、学生が主体となって活動する機会を増やすことができた。一方で、空き家に関する活動ができなかったことなど、学生主体で活動することの難しさと地域の人との継続的な交流の大切さを痛感した一年だった。
来年度は飲食店・観光マップの作成や、空き家の利活用に関する活動などを進めていきたい。



4. 2024 年度合同活動報告会の実施

2) 発表の実施報告

本会では、各報告時間に2プログラムずつ、別のエリアで発表を行った。当日の振り返りと報告のため、後日、各プログラムの発表の様子や、アンケートフォームで回収したご意見・ご質問に対する回答をまとめた報告書を参加学生が作成した。

和歌山県和歌山市

テーマ: 雑賀崎の地域資源の情報発信と空き家の利活用

● 報告について

「雑賀崎の地域資源の情報発信と空き家の利活用」のテーマの下、今年度行った活動内容について発表した。活動内容としては、受け入れ団体であるさいかぎきポッセの協力で行った子どもたち向けのイベント、学生が主体となって実施したロゲイニング、FAVTOWNの協力のもと実施した若者をターゲットとした SNS 発信について発表した。報告を通じて、1年間の活動を振り返ることができ、今後の活動を考える良い機会になった。

● 質疑応答

Q.これから参加者を増やしていきたいとのことだが、参加人数が増えると、住宅と道との距離が近い雑賀崎において観光客が歩き回ると騒音などの地域への悪影響が生じてしまうのではないかと感じた。これからロゲイニングをより発展させていく上で、どのように地域への配慮を行おうと考えているか。

A.地域の方とどのように関わっていくかについては、ロゲイニングに関わらずどのイベントを行う上でも考えなければいけない課題だと感じている。特にロゲイニングは、チェックポイントを探し歩き回ることになるため、地域の方のご協力やロゲイニングの開催目的を明確にする必要があると考えている。学生の中でも、どのように雑賀崎の地域の方とロゲイニングを通じて関わっていけば良いのか話し合いを行ってきた。話し合いを通じて、回覧板にて住民の方にイベントのことを事前に周知することや、お年寄りのかたでも参加しやすいルート作成などが挙げられた。しかし現在、ロゲイニングを続けていく目的が分からず、来年度も継続していくか決めかねている状態である。そのため、具体的にどのように地域の方と関わっていくか決められていない状況ではあるが、これからどのようなイベントをする際にも地域との関わり方は重要な観点になるため、ロゲイニングの継続の是非に関わらず考え続けていきたいと考えている。